

感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2025年第16週(4月14~20日)

(国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所)

●全数報告の感染症(1~5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2025年第1週から)

疾患名	報告数	累積
[1類]		
(報告なし)		
[2類]		
結核	213	3885
[3類]		
コレラ		3
細菌性赤痢	2	14
腸管出血性大腸菌感染症	28	383
腸チフス		7
パラチフス		2
[4類]		
E型肝炎	16	167
A型肝炎	2	44
エキノコックス症	1	6
エムボックス ¹⁾		1
オウム病		3
回帰熱		2
コクシジオイデス症		1
重症熱性血小板減少症候群		5
チクングニア熱		5
つつが虫病	4	41
デング熱	4	49
日本紅斑熱	5	8
ボツリヌス症		1
マラリア		6
レジオネラ症	24	496
レプトスピラ症		1
[5類]		
アメーバ赤痢	4	139
ウイルス性肝炎 ²⁾	2	63
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ³⁾	10	527
急性弛緩性麻痺 ⁴⁾	1	9
急性脳炎 ⁵⁾	5	209
クリプトスポリジウム症	1	7
クロイツフェルト・ヤコブ病	1	45
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	22	514
後天性免疫不全症候群	13	231
ジアルジア症	2	10
侵襲性インフルエンザ菌感染症	21	250
侵襲性髄膜炎菌感染症	2	25
侵襲性肺炎球菌感染症	65	1494
水痘(入院例に限る)	13	163
梅毒	205	4014
播種性クリプトコックス症	1	45
破傷風		23
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	31
百日咳	1884	9336
風しん		5
麻疹	5	83
薬剤耐性アシネトバクター感染症		4

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ ⁶⁾	4627	1.20
新型コロナウイルス感染症	6852	1.77
RSウイルス感染症	2012	0.85
咽頭結膜熱	755	0.32
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6250	2.64
感染性胃腸炎	20169	8.54
水痘	868	0.37
手足口病	171	0.07
伝染性紅斑	2963	1.25
突発性発しん	709	0.30
ヘルパンギーナ	48	0.02
流行性耳下腺炎	143	0.06
急性出血性結膜炎	45	0.06
流行性角結膜炎	661	0.95
細菌性髄膜炎 ⁷⁾	7	0.01
無菌性髄膜炎	9	0.02
マイコプラズマ肺炎	144	0.30
クラミジア肺炎 ⁸⁾	3	0.01
感染性胃腸炎(ロタウイルス) ⁹⁾	114	0.24
急性呼吸器感染症	216136	56.58
インフルエンザ(入院患者)	93	—
新型コロナウイルス感染症(入院患者)	888	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) オウム病を除く。9) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	➡	秋田、富山、岩手
新型コロナウイルス感染症	⬇	新潟、山梨、徳島
急性呼吸器感染症	⬆	栃木、岩手、富山
RSウイルス感染症	⬇	宮崎、新潟、山口
咽頭結膜熱	⬆	島根、宮崎、鹿児島
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	⬆	茨城、富山、愛媛
感染性胃腸炎	⬆	愛媛、宮崎、大分
手足口病	⬆	奈良、沖縄、北海道
伝染性紅斑	⬆	栃木、福島、富山
ヘルパンギーナ	⬆	島根、長崎、熊本
流行性耳下腺炎	⬆	群馬、新潟、栃木
マイコプラズマ肺炎	⬆	福井、奈良、青森

◆コレラ(アンゴラ共和国)

2025年1月以降、アンゴラ共和国ではコレラが流行している。3月23日現在、合計8543例の患者と329例の死亡者(致死率3.9%)が報告され、死亡者の3分の1は病院外で発生している。全21州のうち16州で急速に拡大し、すべての年齢層が罹患しているが、負荷が最も高いのは20歳未満だった。